

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

◆20周年を迎えて（水久保隆之）	1
◆事務局から	2
日本線虫学会ロゴマークの募集結果について	
日本線虫学会誌への投稿募集	
◆2012年度日本線虫学会大会（第20回大会）のお知らせ（大会事務局）	3
◆日韓合同線虫学シンポジウムについて（岩堀英晶）	7
◆記事	
サマー・サイエンスキャンプ 於 森林総研東北支所（前原紀敏）	8
九州線虫懇談会 ～線虫に夢中！な1日～（江島千佳）	10

20周年を迎えて

水久保隆之（中央農研）

日本線虫学会は2012年に創立20周年を迎えました。

昨年9月に京都大学で開催された本学会の評議員会では、学会20周年（研究会設立から40周年）記念行事（記念シンポジウム、記念出版）等について協議が行われました。

記念シンポジウムについては、大会案内にあるように二つのテーマをたてて、適任のパネラーの皆様にご講演を戴くことにしています。

一方、記念出版については、「線虫学実験法」の改訂と線虫学教科書の作成を行うことがほぼ決まりましたが、20周年を契機に着手することになりますから、上梓は来年度以降になるでしょう。学会はこれま

でも学会の前身の線虫研究会20周年を記念した「線虫研究の歩み」（中園和年編）を刊行し、また、記念事業と銘打ってはいませんが「線虫学実験法」（線虫学実験法編集委員会編）を刊行してきました。いずれも、会員の手弁当による執筆と事務局内外の有志による校正作業により、スポンサーを募らない学会費だけによる出版を実現してきました。出版物は会員に無料で配布されましたが、幸いにも好評で、特に実験書は、第1刷の700部を完売し、第2刷300部も完売、誤植をすべて修正した第3刷150部も順調な売り上げを示しています。書物を作る作業は、編集担当の尽力に負うところが大きく、それだけに負担も大きいわけですので、編集体制の構築は最大の課題となります。20周年記念出版事業でも、編集の組織化が課題となるでしょう。20年前とは社会情勢、農業を取り巻く環境が

大きく変わっただけでなく、会員の所属組織、組織の会員への要求も変化しています。端的に言えば、余裕がなくなりつつあるのが実態ですが、それを乗り越えて進まなければなりません。

もう一つ、いささか個人的願望に属しますが、20周年のこの契機に行っておきたいと思うことがあります。それは有害線虫被害発生アンケート調査です。1999年9月に日本植物防疫協会が企画した「線虫防除の戦略と展望」のシンポジウムが家の光協会で開催され、私は「最近の線虫研究の動向と線虫問題」と題して過去10年の線虫被害発生状況、研究動向、防除対策に関する講演を行いました。この準備のため全国の都道府県の農政・植物防疫担当者にアンケートを送り、回答を戴きました。その結果を集約して行った講演でした。この講演内容はシンポジウム講演要旨として参加者に配布されましたが、植物防疫にはそれを更に要約した記事が掲載されました（水久保隆之．最近の線虫研究の動向と線虫問題．植物防疫．54（1），40－47（2000））。この調査資料は少なくとも私にとって、国内外の植物防疫関係者に日本の線虫害の事情、防除実態などを説明する際の根拠として大変役立ちました。多分多くの関係者にも参考にして戴いていたと思います。それから、10年以上の歳月がたち、その間に臭化メチルの使用全廃（特定用途を除く）を経て登録農薬の改廃もあり、農業産業構造の変化もありました。資料はもはや現在を反映できなくなっています。20周年の機会に新たに農業の「線虫問題」の洗い直しを行うべきだろうと考えているところです。多くの会員の皆さんにも関心が深い事項ですから、学会として取り組む価値がある課題だと思います。

[事務局から]

日本線虫学会ロゴマークの募集結果について

前回のニュースでお知らせしました、日本線虫学会ロゴマークの募集が4月30日に締め切られました。その結果、仮ロゴマークを含め11点の応募がありました。ご応募ありがとうございます。事務局では評議員会での審査を開始すべく、評議員との意見交換を重ねています。次回の日本線虫学会大会までにロゴマークを決定し、皆様に披露する予定です。ご期待ください！

日本線虫学会誌への投稿募集

日本線虫学会誌（Nematological Research）に掲載された原稿は、J-Stage（科学技術情報発信・流通総合システム）を通じて公開されています。また、本誌は、CAB-Abstractsにも収録されています。このことは、世界中の研究者がより手軽に本誌掲載の論文等を読むことができるようになり、その結果、論文等の引用機会も増える可能性が高まることを意味しています。会員のみなさまにおかれては、本誌を上手にご活用下さい。和文あるいは英文の論文・総説・短報・研究資料等のご投稿をお願い致します。

投稿先：小坂 肇 hkosaka@ffpri.affrc.go.jp
〒860-0862 熊本県熊本市黒髪
4-11-16
森林総合研究所九州支所
森林微生物管理研究グループ
TEL：096-343-3168
FAX：096-344-5054

2012 年度日本線虫学会大会（第 20 回大会）のお知らせ

大会事務局

今回は 20 周年記念大会です。記念のシンポジウム及び、線虫学会初の試みとしてポスターでの講演も予定しています。皆様ふるってご参加願います。

1. 大会事務局

農研機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域

水久保隆之

(連絡先)

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1

TEL: 029-838-8839, FAX: 029-838-8837

E-mail: mizu@affrc.go.jp

2. 日程（時間等は変更の可能性あり）

◇2012 年 9 月 18 日（火）

9:00～12:00 評議員・編集委員会

13:00～14:00 総会

14:15～17:00 一般講演（口頭発表）

18:00～20:00 懇親会

◇2012 年 9 月 19 日（水）

9:30～12:00 20 周年記念シンポジウム
1¹⁾

12:00～12:30 記念撮影

12:30～13:30 昼食休憩

13:30～17:00 20 周年記念シンポジウム
2²⁾

◇2012 年 9 月 20 日（木）

9:30～11:00 一般講演（口頭発表）

11:00～12:00 一般講演（ポスター発表）

12:00～13:00 昼食休憩

13:30～15:00 一般講演（口頭発表）、
ポスター撤去

（エクスカージョンはありません）

1) 20 周年記念シンポジウム 1

「線虫と周辺生物との相互作用」

このシンポジウムでは、気鋭の若手研究者の方々に、線虫と他の生物との相互作用に関する基礎的・学術的な研究を紹介していただきます。線虫が媒介する菌類ウイルス、カメムシに同調した生活環を持つ線虫、線虫に寄生された植物の機能遺伝子反応など 4 題の講演を予定しています。

2) 20 周年記念シンポジウム 2

「新しい環境保全型線虫防除技術」

このシンポジウムでは、近々 4 年間に農林水産省助成事業「実用技術開発事業」

（略称）で採択・課題化され、コンソーシアム共同体により集中的に研究された線虫防除技術を中心に、研究統括者または線虫課題担当者から技術の概要と防除効果、普及の展望等をご紹介戴きます。予定演題は

「孵化促進物質によるシストセンチウ防除技術」（北農研）、「リアルタイム PCR による線虫密度診断技術」（農工大）、他 3 題程度を考えています。

3. 会場

1) 大会、シンポジウム

文部科学省研究交流センター 国際会議場
住所：〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-5

（TX つくば駅・つくばセンターから南へ徒歩 20 分）

TEL: 029-851-1331, FAX: 029-856-0464

URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/index.htm

2) 懇親会

つくば国際会議場内エスポワール

TEL: 075-850-3266

URL: <http://sansuitei.jp/espoir.php>

4. 参加費および懇親会費

- 1) 大会参加費: 一般 3,000 円
 学生 1,500 円*

(7月28日以降一律3,000円)

大会参加費には講演予稿集代を含みます。

- 2) 懇親会費: 一般 5,000 円
 学生 3,000 円*

(7月28日以降一律6,000円)

(*郵便振替用紙の所定欄に指導教員のサインが必要です。)

5. 参加及び講演申し込み

大会参加を希望される方は、2012年7月27日(金)までに参加費を添えて大会事務局までお申し込み下さい。同封の郵便振替用紙兼大会参加申込書(口座番号:00160-2-623643、加入者名:日本線虫学会第20回大会事務局)をご利用になり、必要事項をもれなく記入(チェック)の上、ご送金ください。

講演を希望される方は、上記用紙の所定欄に講演の有無を記入するとともに、講演要旨を下記要領に従って作成し、7月27日(金)までに大会事務局へお送り下さい。今大会では日程の都合上、口頭講演の他ポスター講演も採用します。口頭講演またはポスター講演の希望を上記用紙にご記載願います。記載がない場合は大会事務局がいずれかに割り振ります。また、時間やスペースの都合上、ご希望の講演形態にできない場合もありますのでご理解方お願い致します。講演予稿は電子媒体と紙媒体(印字原稿、当日消印有効)で受け付けますが、電子媒体による送信を歓迎します。印字原稿の場合はコピー1部を添えて下さい。なお、E-mail添付の場合は、受信後1週間以内に受付確認メールを講演予稿集担当から送信します。1週間を過ぎても確認メール

が届かない場合は、大会事務局までご連絡下さい。

◎講演要旨送付先

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1
森林総合研究所森林病理研究室
神崎菜摘

TEL: 029-829-8246

E-mail: nkanzaki@affrc.go.jp

6. 講演発表

講演発表は1人1題とし、発表者は本学会員でなければなりません。口頭での講演時間は討論時間を含めて1題15分を予定しています。口頭発表では、PCプロジェクターのみ使用できます。PCプロジェクターの利用環境はWindows、対応ソフトはPower Point 2007以前のバージョンです。講演受け付け記録メディアは、USBメモリーによるウイルス感染が多発していることから、CD-Rのみとします。

ポスターでの講演の場合は、下記のサイズに収まるポスターを作製して下さい。

(サイズ1180mm×1740mm:ちなみにA0サイズは、841×1189mmです)なお、ポスターを貼り付けるピンなどは大会事務局で用意します。

7. 講演予稿の作成

異なる所属の区別の仕方などが昨年までの書式と異なりますので、ご注意下さい。講演予稿はB5判用紙を使用し、横置きで、上下左右の余白を2.5cmとして作成して下さい。1行は全角45字、本文13行(全角585文字)、全体16行(タイトル行3行のとき)か17行(同4行以上)以内として下さい。1行目に演者名を記し(発表者の前に○印、複数の場合は・で区切る)、続けて括弧()内に所属の略称(所属が

異なる場合は、上付数字を付けて区別する)、1字空けて演題、1字空けて上記事項の英文表記(氏名は Araki, M.のように、所属は Tsukuba Univ.のように省略して記す)を記載して下さい。本文は行を改めて次の行から始めて下さい。タイトル行はゴシック系(MS ゴシックなど)、英文表記は Century Gothic または Arial など、本文は明朝系(MS 明朝など)、英文表記は Century または Times New Roman などのフォント(12 ポイントを推奨)を使用し、本文の英数記号は半角を使用して下さい。本号巻末の見本も参考にしてください。講演予稿は電子媒体と紙媒体(印字原稿、当日消印有効)で受け付けますが、電子原稿を歓迎します。電子メールの添付ファイルで提出される場合、ソフトウェアは「MS ワード」または「一太郎」を使用して下さい。印字原稿の場合はコピー1部を添えてください。講演予稿集は送信または郵送された講演要旨をダイレクトプリントして作成します。郵送の場合は、折り目や汚れがないようにご注意ください。講演予稿集は大会当日、参加者に会場で配布します。また、講演要旨は日本線虫学会誌 42 巻 2号に掲載されます。

8. プログラム

大会プログラムは、本年8月発行予定の学会ニュース No. 57 に掲載するほか、学会 HP (<http://senchug.ac.affrc.go.jp/index.html>)、メーリングリスト「NEMANETJ」(入会は上記ホームページから)でもお知らせします。

9. 交通

1) つくばエクスプレス(TX) : 秋葉原駅から「つくば駅」行が1時間におよそ4

本出ています。終点「つくば駅」下車(1,150円)。

2) 高速バス

・東京駅八重洲南口から「つくばセンター・筑波大学」行が約20分間隔で出ています。「つくばセンター」下車(1,150円)。

・羽田空港から「つくばセンター」行がおよそ1時間に1本出ています。終点「つくばセンター」下車(1,800円)。

3) JR

・荒川沖駅下車: 西口から「つくばセンター」行バスが1時間に2~3本出ています(440円)。

・ひたち野うしく駅: 東口から「つくばセンター」行きバスが約20~30分間隔で出ています。終点「つくばセンター」下車(500円)。

4) 自動車: 案内図を参照の上お越しく下さい。最寄りの高速道路インターチェンジは常磐自動車道桜土浦インターです。(駐車場無料) つくば周辺のバス時刻などは下記 URLなどを参考にして下さい。

<http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/tsukuba.html>

大会会場は、つくばセンター(つくば駅)から「歩行者専用道路」を歩いて約1km南にあります。「つくばセンター」から徒歩もしくはタクシーを利用して下さい。つくば市内には類似の名称の施設がいくつかありますのでご注意下さい。

10. 宿泊のご案内

大会事務局は宿泊施設の斡旋はいたしません。各自手配をお願いします。会場周辺の宿泊施設を下に紹介します。所在地は案内図でご確認下さい。また、下記の情報はH24年4月時点のものです。必ず各自で施

設に確認願います。つくば市内にはその他にも宿泊施設がありますが、会場と離れている施設を利用する場合は、交通手段をあらかじめご確認下さい。

- ① ホテル山久 (サンキュウ) (3500 円～) 〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 1
TEL: 029-852-3939, FAX: 029-851-2977
- ② ビジネスホテル松島 (3800 円～) 〒305-0034 つくば市小野崎 35 TEL: 029-856-1191, FAX: 029-856-2555
- ③ つくばスカイホテル (5300 円～) 〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 283-1
TEL: 029-851-0008, FAX: 029-856-5116
- ④ ホテルグランド東雲 (7000 円～) 〒

305-0034 茨城県つくば市小野崎 488-1
TEL: 029-856-2211

⑤ 学園桜井ホテル (6878 円～) 〒305-0033 茨城県つくば市東新井 8-7 TEL: 029-851-3011, FAX: 029-851-3611

⑥ オークラフロンティアホテルつくば (11900 円～) 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 1-1364-1 TEL: 029-852-1112, FAX: 029-852-5623

⑦ オークラフロンティアホテルつくば エポカル (9100 円～) 〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-1 TEL: 029-860-7700, FAX: 029-860-7701



⑧ホテルニューたかはし竹園店 (6100 円～) 〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-10-3 TEL: 029-851-2255, FAX: 029-852-1999

⑨つくばデイリーイン (5300 円～) 〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-12-4 TEL: 029-851-0003, FAX: 029-856-5116

⑩ホテルルートつくば (5775 円～) 〒305-0025 茨城県つくば市花室 1145-3 TEL: 029-860-2111, FAX: 029-855-4123

⑪ダイワロイネットホテルつくば (5800 円～) 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 1-5-7 TEL: 029-863-3755, FAX: 029-863-7955

日韓合同線虫学シンポジウムについて

岩堀英晶 (九州沖縄農研)

このたび韓国 National Institute of Horticultural & Herbal Science の主催で、日韓合同線虫学シンポジウム- Diagnosis and management of plant-parasitic nematodes in the era of globalization-を開催することになりました。

1. 日程

◇2012年10月11日(木) 13:20-
12日(金) 17:00

シンポジウムおよびポスター発表

◇2012年10月13日(土)

オプションツアー (研究所視察)

2. 場所

チェジュ (済州) 島

現時点で会場やポスター発表募集の詳細は決まっていますが、シンポジウムでは下記の日韓6名ずつの話題提供者が講演する予定です。

Symposium I: Nematode taxonomy and

diagnosis

Hideaki Iwahori (NARO Kyushu Okinawa Agricultural Research Center): Practical identification methods of plant-parasitic nematodes by PCR-RFLP, species-specific primers, DNA sequences.

J. K. Park (Chungbuk Natl. Univ.): Mitochondrial DNA as a genetic marker for nematode phylogenetics and species identification of *Bursaphelenchus* species.

Koki Toyota (Tokyo University of Agriculture and Technology): A novel nematode diagnostic method by the direct quantification of plant-parasitic nematodes in soil with real-time PCR.

Haerim Han (Natl. Forestry Res. Institute): Status of pine wilt nematode research in Korea.

Takuya Aikawa (Forestry and Forest Products Research Institute): A simple and rapid diagnosis of pine wilt disease using loop-mediated isothermal amplification.

Chang Hwan Bae (National Institute of Biological Resources): Secondary structure models of D2-D3 expansion segments of 28S rRNA for Hoplolaiminae species.

Symposium II: Environment and IPM of plant-parasitic nematodes

Hiroaki Okada (National Institute for Agro-Environmental Sciences): Nematode community as an environmental indicator.

B. Y. Park (Natl. Academy of Agri. Sci): Effects of heavy metal contamination on soil nematode community structure.

Takayuki Mizukubo (NARO National Agricultural Research Center): Recent IPM tactics in nematode control in Japan.

Myoung Rae Cho (Natl. Inst. of Hort. & Herbal Science, RDA): Research on environ-

ment-friendly approach on management of nematodes in horticulture.

Takashi Narabu (NARO Hokkaido Agricultural Research Center): Control of potato cyst nematode by application of hatching factors.

Jae Yong Chun (QIA, Plant Quarantine Technology Center): Recently detected nematodes in Plant Quarantine of Korea.

今後詳細が決まり次第、ニュース、ホームページ、NEMANETJ 等でお知らせしていきたいと思っております。多数のご参加をお待ちしております。

【記 事】

サマー・サイエンスキャンプ 於 森林総研東北支所

前原紀敏（森林総研東北）

本ニュース第 54 号の編集後記で、「サマー・サイエンスキャンプ」という、高校生のための科学技術体験合宿プログラムについて、ごく簡単に紹介させていただきましたところ、大きな(?) 反響がありました。もっと詳しく教えてほしいというご要望を受け、本稿を書こうと思い立ちました。

サイエンスキャンプの主催は科学技術振興機構で、受入実施機関は全国の大学、公的研究機関、民間企業の研究所などです。分野は、ライフサイエンス、環境、エネルギー、ナノテクノロジー、材料、情報工学、ロボット工学、(宇宙・海洋等の) フロンティア、農学、水産学、地球科学等となっています。基本的には2泊3日の日程で行われますが、一部、サイエンスキャンプ DX といって、3泊4日以上で行われるプログラムもあります。

森林総合研究所東北支所では、「森林の小さな大敵を探し出せ! ~DNA で検出

する松の病原線虫~」というテーマで、2010年と2011年の夏に2泊3日の日程で行いました。中村克典チーム長(松くい虫担当)を中心に、磯野昌弘グループ長、市原優さん、相川拓也さん、そして私という生物被害研究グループのメンバーが講師となりました。アドバイザーとして盛岡北高校の先生、また引率担当として日本運種株式会社の方も付いて下さいます。1年目は岩手から和歌山までの高校生8名(男子2名、女子6名)が、2年目は青森から和歌山までの9名(男子5名、女子4名)が参加しました。ばらばらだったのは出身地だけではなく、学年も1~3年生、サイエンスキャンプへの応募の動機も、自分の意志でという子から、文系なのに先生に必ず応募するように言われたという子まで、森林総研東北支所の希望順位も、第1希望から、第6希望にも入っていなかったという子までと、様々でした。

初日は、午後開始(以下で紹介するプログラムの流れは、基本的には1年目と2年目で同じです)。開講式では、前に一列に整列して、一人ずつ自己紹介です。同じ高校からの参加者はいないため、一人も知り合いがない中での自己紹介となり、緊張がこちらにまで伝わってきます。それを解きほぐしたのが、続いて行われた中村さんの講義です。今回のサイエンスキャンプの企画、申し込みから準備まで、中村さんがほとんど一人でやって下さったのですが、中でも講義の準備は大変です。「松くい虫とは?」といった辺りはいいのですが、前述の通り、1年生から3年生まで参加していて高校で習っている知識のばらつきが大きく、「DNA って何?」というところから始めなければなりません。また、「科学的な態度とは?」、「科学における方法の

重要性」といった話もされました。科学においては、論理性・実証性・客観性が必要だという話は、普段学校ではあまり聞くことのない話のため心に残ったようで、最終日の成果発表や、事後の感想文およびアンケートで触れていた子も多かったです。かく言う私も、科学的な態度について再認識することができました。

講義の後は、3つの班に分かれて、実習です。各班に、講師として私たちが付きます。そして、あらかじめこちらで準備したマツ丸太から、電気ドリルを使って、線虫分離用の材片を採取してもらいます。材線虫病による当年枯れ木、年越し枯れ木、被圧枯死木など状態の違う丸太を、こちらの線虫相予想とともに示し、班ごとに調べたいテーマを自分たちで検討してもらいます。その後、決めたテーマに従って、好きな丸太から一人最大3試料まで採取してもらいました。初対面の3人が一つの班になり、いきなりテーマを検討するように言われるわけですが、各班ともうまい具合に引っ張る子が出て、短時間でこなしていたのには感心しました。また、この頃になると、講師に実習内容について質問してくる子も。でも、生徒たちの一番の興味は、電気ドリルにあったかもしれません。電気ドリルを使うのは初めてという子も多く、ドリルに引っ張られて自分の方が回転してしまいそうになっている女の子もいましたが、楽しみながら無事に採取することができました。1日目の実習は、採取した材片をベールマン漏斗にかけて終了です（1年目はこの後、バーベキューによる懇親会を開き、2年目は初日だと疲れと緊張もあるだろうからということで、2日目の夜に懇親会を設けました）。

2日目は、まず分離した線虫の観察です。

最初に実体顕微鏡で見てもらい、マツノザイセンチュウかなと思う線虫がいたら、生物顕微鏡で確認してもらいました。ここでの生徒たちの興味は、観察用のプレパラートを作るための線虫釣りでした。当然初めての経験のため、なかなかの難関だったようです。20年くらい前に、恩師である二井一禎先生に線虫釣りを習った日のことを思い出しました。分離できた線虫は分散型第3期幼虫が多かったため、なかなか判断の難しいところではあったのですが、一応マツノザイセンチュウを検出できたサンプルとできなかったサンプルに分けることができました。

午後からは、相川さんの指導のもと、マツ材線虫病診断キットによる検出です。分子生物学に惹かれて参加した生徒にとっては、一番興味のあるところですが、初めはピペット操作に苦労する子もいましたが（その前に手袋をはめるのに苦労する姿もちらほらと・・・）、さすがは最近の高校生だけあって、終わる頃にはみんな上手に使いこなしていました。診断キットの反応の待ち時間には、磯野さんの昆虫標本を見せてもらい、多様な昆虫の世界を垣間見ることができました。さて、キットの結果はどうだったでしょうか。午前中の顕微鏡による直接観察の結果と概ね一致していましたが、一部合わないところも。ホテルに持ち帰って、みんなでミーティングです（宿舎ミーティングは、アドバイザーの先生が指導して下さいます）。

早いもので、もう最終日です。午前中いっぱい、昨晚のミーティングでの相談結果をもとに、午後からの成果発表の準備です。発表タイトルを決め、紙とサインペンを使って、各班10枚程度のスライドを作ります。とりあえず作り出す班もあれば、

じっくり考え抜いてから作り出す班まで様々で、見ていて面白かったです。質問されれば答えるけれど、基本的には生徒たちの好きなように、まとめてもらいました。3時間で手書きのスライドを作るところまで終わらせるのは大変だと思うのですが、どの班も無事作り終えたばかりか、昼食もそこそこにして、自主的に発表練習をしていました。

午後からは、いよいよ班ごとに15分間の成果発表です。パワーポイントによる発表に慣れてしまっている目からは、手書きのスライドは本当に新鮮です。昨年の線虫学会の発表では、タイトルだけでも手書きにしてみようかと思っていたくらいです（結局、直前まで準備していて、いつもどおりパワーポイントになってしまいました）。話が少し逸れてしまいましたが、各班の発表タイトルをここで記してみます。まず、1年目。1班：マツノザイセンチュウの検出、2班：森林研究所の予想は本当なのか？、3班：マツノザイセンチュウの検出法について。次に、2年目。1班：米国からの帰国子女マツノザイセンチュウとは～小さな世界の物語～、2班：マツ材線虫病診断～効果的な駆除のために～、3班：マツノザイセンチュウは本当にいるのか。なかなかの出来映えだと思いませんか（一部内容に間違いがあるのは、ここでは目をつぶるとして）。私の担当は、1年目は2班、2年目は3班でした。ともにタイトルに「本当か」が入っているのは、なぜなのでしょう？ それにしても、担当した班の発表のときには、特にドキドキしました。うまく発表できるかなと。でも、そんな心配は無用でした。どの班も、緊張しながらも、プロの研究者顔負けのプレゼンを披露してくれました。2泊3日でよくこ

こまでできたなと感心するばかりです。

初日には、講師も自己紹介の挨拶をしたのですが、私はその中で、「この3日間はあるという間に過ぎると思います。ぜひ線虫っていう生き物もいるのだということを感じて帰って下さい」というような話をしました。後に送られてきた感想文を見ると、生徒たちの心の中に線虫がしっかりと残ってくれたことが分かり、とても嬉しく思いました。このように東北支所でのサイエンスキャンプが成功裏に終わったのも、全てを一手に引き受けて下さった中村さんのお陰です。また、事務局を努めて下さった東北支所連絡調整室の皆様初め、サイエンスキャンプの関係者の皆様にも感謝しています。次回は、ぜひ皆様のところでもサイエンスキャンプを開催してみたいはいかがでしょうか。



線虫釣りに挑戦中（左端が中村チーム長）

九州線虫懇談会 ～線虫に夢中！な1日～ 江島千佳（熊本大理）

こんにちは！熊本大学自然科学研究科修士1年の江島千佳と申します。線虫歴1年目の私ですが、僭越ながら4月6日（金）に熊本県合志市の九州沖縄農業研究所にて行われました第7回九州線虫懇談会について報告させていただきます。そもそもこの

会に参加することになりましたのは、昨年度、もともと植物に興味があった私が、念願の植物の形態形成に関する研究を行っている研究室に無事に配属され、BOSSである澤進一郎先生が卒業研究テーマの1つとして「線虫」をあげられたことに始まります。押しに弱い私は、先生のうまい話にのせられ、線虫の研究をすることになりました。卒業研究は分子生物学の視点から植物に感染する線虫の感染経路や、植物の発病経路を解明することを目的に、様々な品種のトマトやモデル植物であるシロイヌナズナの突然変異体を用いた解析を行いました。

今回、線虫のプロフェッショナルの皆さんの前で線虫ど素人の私が自主発表をするにはとても勇気が要りました。実際のところ、線虫のことを専門に研究している研究室ではないので、九沖農研の立石さん、吉田さんの発表では知らなかったことばかりで、ノートに線虫の生活環からなにからメモする次第で、とても勉強になりました。また、澤嶋先生の話では菌食性線虫を初めて知り、いろいろな線虫がいるものだなあと思いました。熊本大学からは私と、新た

に線虫チームに加わりました3人の4年生で自主発表と自己研究紹介をさせていただき、様々なご指摘やアドバイスをいただきました。これこそが今回、この会に参加した最大のメリットであり、作戦通りだったなど満足しています。

私たちは理学の方面から、線虫が感染に成功し繁殖していく分子的なメカニズムを解明する、基礎研究を行っています。農学的な研究と比べると、実際にこの研究が線虫防除など、農業分野にすぐ生かされるかという、答えはきっとNOです。農学的研究を行っている方にとっては理学的研究が、理学的研究を行っている方にとっては農学的研究が、それぞれ理解しがたいこともあるかと思います。それでもみなさん線虫に夢中で、それぞれの目的のために日々研究を行っている。その点で参加したみなさんと私たちはつながっていたと思います。私たちの発表を聞いてくださり、様々なご意見、ご感想をくださいました参加者のみなさんにはとても感謝しております。ありがとうございました。

[編集後記]

◆3月初め、子供と遊んでいて右足をのばしたときに、そけい部（脚の付け根）を傷めました。筋肉や骨に痛みはなく、通常の歩行などには支障がないのですが、自転車に乗ろうとサドルをまたぐような動作をしたときだけ「ツン」とした痛みが、今も走るのです。股関節の腱が傷んでいるのでしょうか?近所の整形外科で見てもらっても塗り薬をくれただけでした。連休中に家の引っ越し作業をしてから少し症状が悪化したような気がします。作業では腰痛も再発しました。老化や更年期障害がすすんでいるのでしょうか?視力の衰えなど、いやでも身体の変化を感じる今日この頃ですが、それでも「生物の老化現象とはこういうものなのか?」などといって自分の身体の変化を観察する余裕がありました。しかし、物理的な痛みを伴うとそうも言っていられません。足の痛みの原因や治療法について皆さんからアドバイスをいただければ幸いです。

(岡田浩明)

◆今号では、サマー・サイエンスキャンプについて紹介させていただきました。書き始める前は、昨年と一昨年のことなので、どのくらい覚えているかと心配になり、岡田さんに書きますと言わなければよかったですと少し後悔もしました。でも、実際に書き始めてみると、いくらでも書けそうな感じになってきて、自分自身も楽しかったのだということのを再認識できました。その楽しさを十分に伝えられたかどうか分かりませんが、長文になってしまったにもかかわらず、最後まで読んで下さった皆様に感謝いたします。

(前原紀敏)

2012年5月14日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 岡田 浩明

(ニュース編集小委員会)

(独) 農業環境技術研究所 生物生態
機能研究領域

〒305-8604

茨城県つくば市観音台3-1-3

TEL: 029-838-8307

FAX: 029-838-8199

E-mail: hokada@affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第56号

ニュース編集小委員会

岡田 浩明 (農環研)

前原 紀敏 (森林総研東北)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター

〒861-1192

熊本県合志市須屋 2421

TEL: 096-242-7734 FAX: 096-249-1002

E-mail: senchug@kpd.biglobe.ne.jp

URL: <http://senchug.ac.affrc.go.jp/>